

**地球市民の一員として、  
継続的な環境保全を進めるために、  
環境経営の実現を目指します。**

私たちの地球は、豊かな包容力でさまざまな生物を育み、また人類の広範かつ活潑な活動を支えてきてくれました。しかし近年の人類の活動は、地球の包容力の限界を超え、多くの生物との共存はおろか、私たち人類の存続さえも危うくしています。環境は人類全体にとって「待ったなし」の問題なのです。将来の世代に豊かな地球を受け渡すために、私たちは、それぞれの活動を環境負荷の少ないものに変えて行かなくてはなりません。地球全体の環境負荷削減のためには、それぞれの国や地域の行政・企業・市民団体・個人などすべての地球市民が、自らの活動が環境に与えている負荷を知り、積極的にその削減に努めると共に、お互いが示唆しあい、協力しあうことも重要です。

私たちリコーグループは、地球市民の一員として、かけがえのない地球を守ることを企業使命として考え、経営のあらゆる側面に「環境」という視点を取り入れ、事業活動の環境負荷を自然が許容できる範囲内に近づけることを目標に取り組んでいます。環境保全は、一時的なものであってはなりません。法規制があるから行うものでもありません。ましてやPRで行うものでもありません。私たちは、地球環境保全は未来永劫、企業使命として取り組んで行く課題であるという固い決意のもとに、継続性に重点を置いて活動してきました。企業として継続して環境保全を行うためには、単なる活動ではなく、活動を通じて利益を創出する事業としていく必要があります。「継続的な環境保全を行うために、環境保全と利益創出を同時に実現すること」、これがリコーグループの「環境経営」の根幹となる考え方です。

21世紀に、世界中から存続を望まれる企業であるためには、環境・経済・社会的責任のすべての面に積極的に取り組み、社会からの支持を得ていることが条件になります。リコーグループは「企業は社会の一員として社会に貢献する立場にある」という認識に立ち、グローバルな視点で環境経営を推進すると共に、それぞれの国や地域の経済の

活性化や人材育成に貢献してきました。また、事業全体の環境負荷を自然の回復力の範囲内に近づけるための活動を推進する一方、自然の回復力そのものを高めるために、森林生態系保全活動などの環境社会貢献にも積極的に取り組んでいます。

私たちは、国境を超えた問題である環境問題について、世界中の多くの方々と語り合うために、私たちの活動を真摯な姿勢でグローバルに情報開示して行きます。2002年版の報告書は、タイトルも「環境経営報告書」と改め、リコーグループの2001年度におけるグローバルな活動の内容と成果をまとめました。リコーグループの考え方や活動を一人でも多くの方にご理解いただき、また、今後の活動の質を高めて行くためにも、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。



株式会社リコー  
代表取締役社長

桒井正光